

マダガスカル共和国の南東部では、食料危機や自然災害などの影響で子どもの栄養不良が課題となっています。農家や青少年の生計向上と母子の栄養状態改善を図るとともに、災害に対する回復力の向上を目指して活動しました。



栄養価の高い作物を育てられるように、農家240人に研修を行いました。その結果、202人が生産量を増やすことができました。また、家庭の収入向上を通じて子どもの栄養改善につなげるため、生計手段を持たない若者にライフスキルや職業技術の研修を実施しました。研修を修了した191人のうち、155人が起業を実現しました。



アフリカ大陸南東部沖の島国であるマダガスカルは、サイクロンで農地が流されたり、干ばつで農地を失うなど、気候変動によって食料危機に直面している国です。



養育者の中からリーダーを選出し、母子保健・栄養・衛生の研修を行い、リーダーが地域の11,300人に啓発活動を実施し、住民自身が子どもの栄養不良を予防できるよう支援しました。また、栄養不良の子どもを適切に対応できるように、地域保健センターのスタッフの研修を行いました。



地域住民が中心となって、自然資源を守りながら生計活動を続けられるよう、新たに8村で「地域行動計画」を策定しました。また、気候変動について23人の子どもたちとワークショップを開催し、話し合われた「子どもの声」は、テレビやラジオ、新聞などで取り上げられました。

